



CDPウォーター日本報告

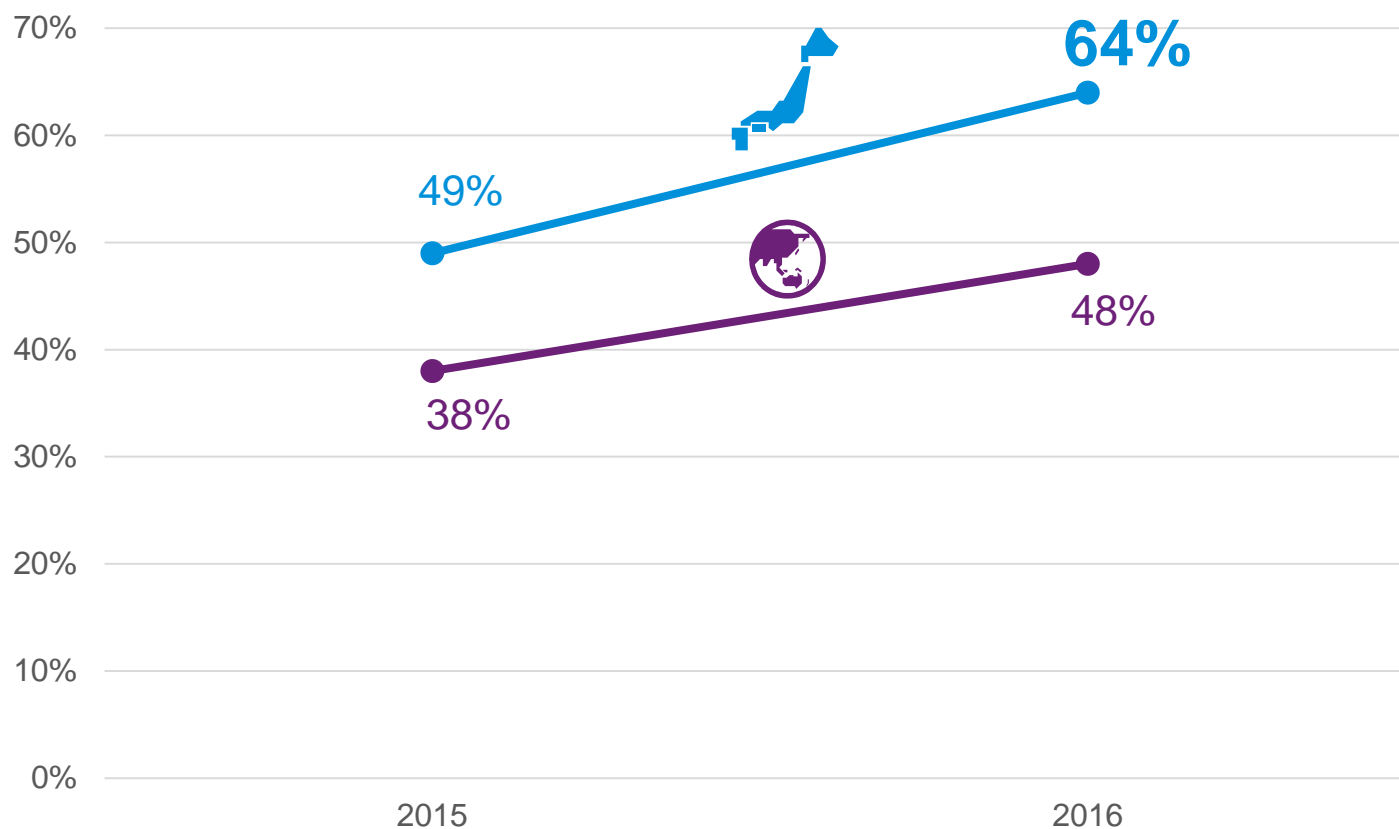
2016年12月5日

KPMGあずさサステナビリティ株式会社

齋藤 和彦

質問書への回答（全体）

- 150社のうち96社（64%）が質問書に回答。回答率は前回調査から15ポイント上昇。
- グローバル調査の回答率（48%）よりも高い回答率。



質問書への回答（業種別）

- 「生活必需品」以外のすべての業種において回答率上昇。
- これまで回答のなかった「エネルギー」と「公益事業」からも回答。

業種	母数	回答数	回答率	前回回答率
一般消費財・サービス	39	24	62%	48%
生活必需品	21	8	38%	44%
エネルギー	2	1	50%	0%
ヘルスケア	17	10	59%	44%
資本財・サービス	31	21	68%	56%
情報技術	15	14	93%	74%
素材	16	11	69%	50%
公益事業	9	2	22%	0%

自主的な回答と分析・スコアリング対象

- 27社から自主的な回答（前回から8社の増加）。
- 執筆時までに回答が得られた117社の回答を分析。
- 期日までに回答が得られた108社の回答をスコアリング。

企業	母数	回答数	執筆時までに得られた回答数	期日までに得られた回答数
対象企業	150	96	91	89
自主回答企業		27	26	19
計		123	117	108



機関投資家の関心の高まり

CDPウォータープログラムへの署名

- CDPウォータープログラムに署名する投資機関数が2013年の530から2016年の643に増加。

企業に対するエンゲージメント

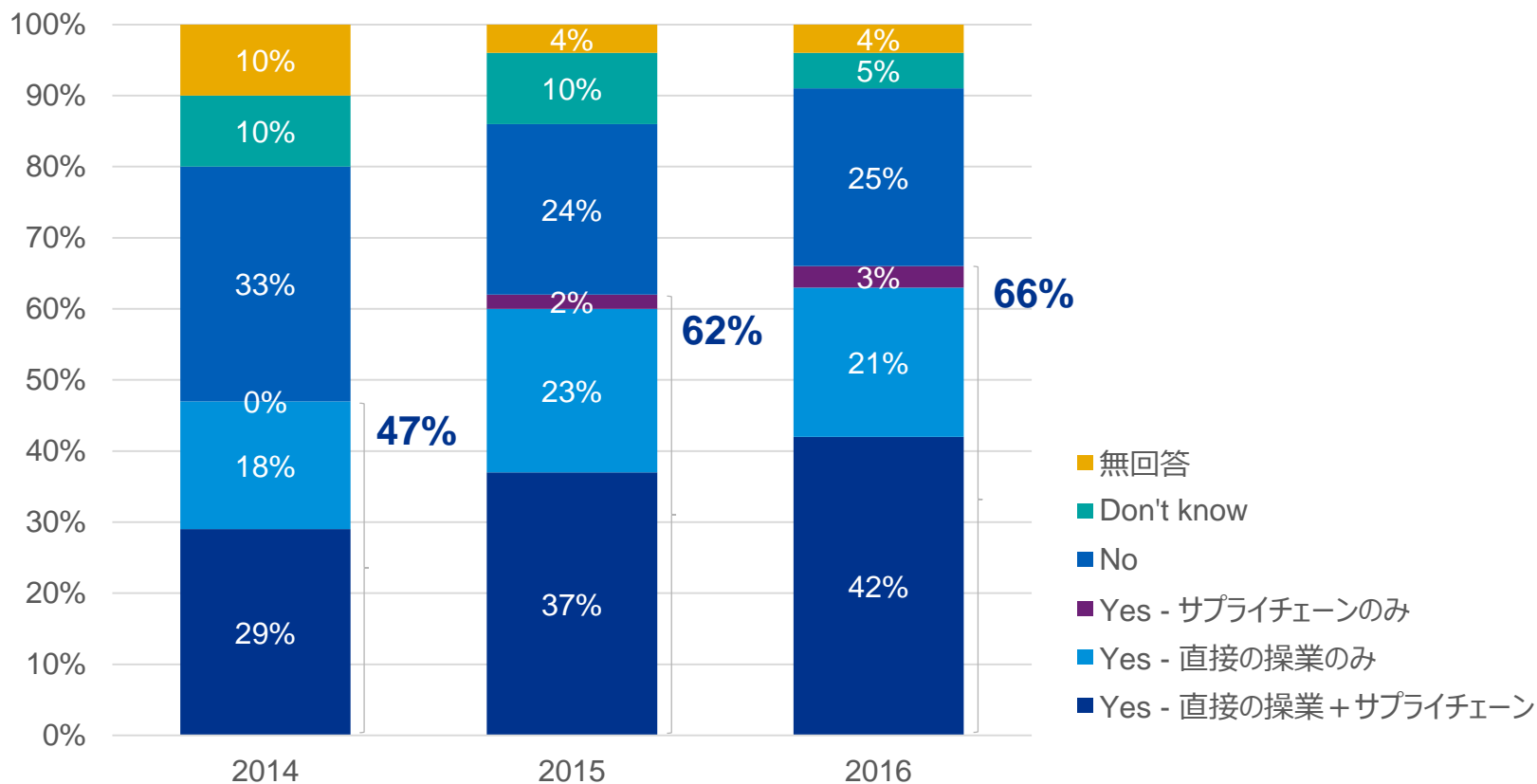
- 北米と欧州の60を超える機関投資家が15の食品飲料会社に対して水リスク管理や情報開示の強化を求める文書を送付。
- 英国のChurch Investors Groupは、CDPウォーター質問書に回答していない37社に働きかけを行い、結果、2016年の質問書に対して16社が回答を行う。

信用リスク評価における企業の水リスクの組み込み

- UNEP金融イニシアティブ（UNEP FI）とグローバル・キャピタル・プログラム（GCP）による「自然資本金融アライアンス」は、信用リスクの評価において企業の水リスクを組み込むためのツールを開発。

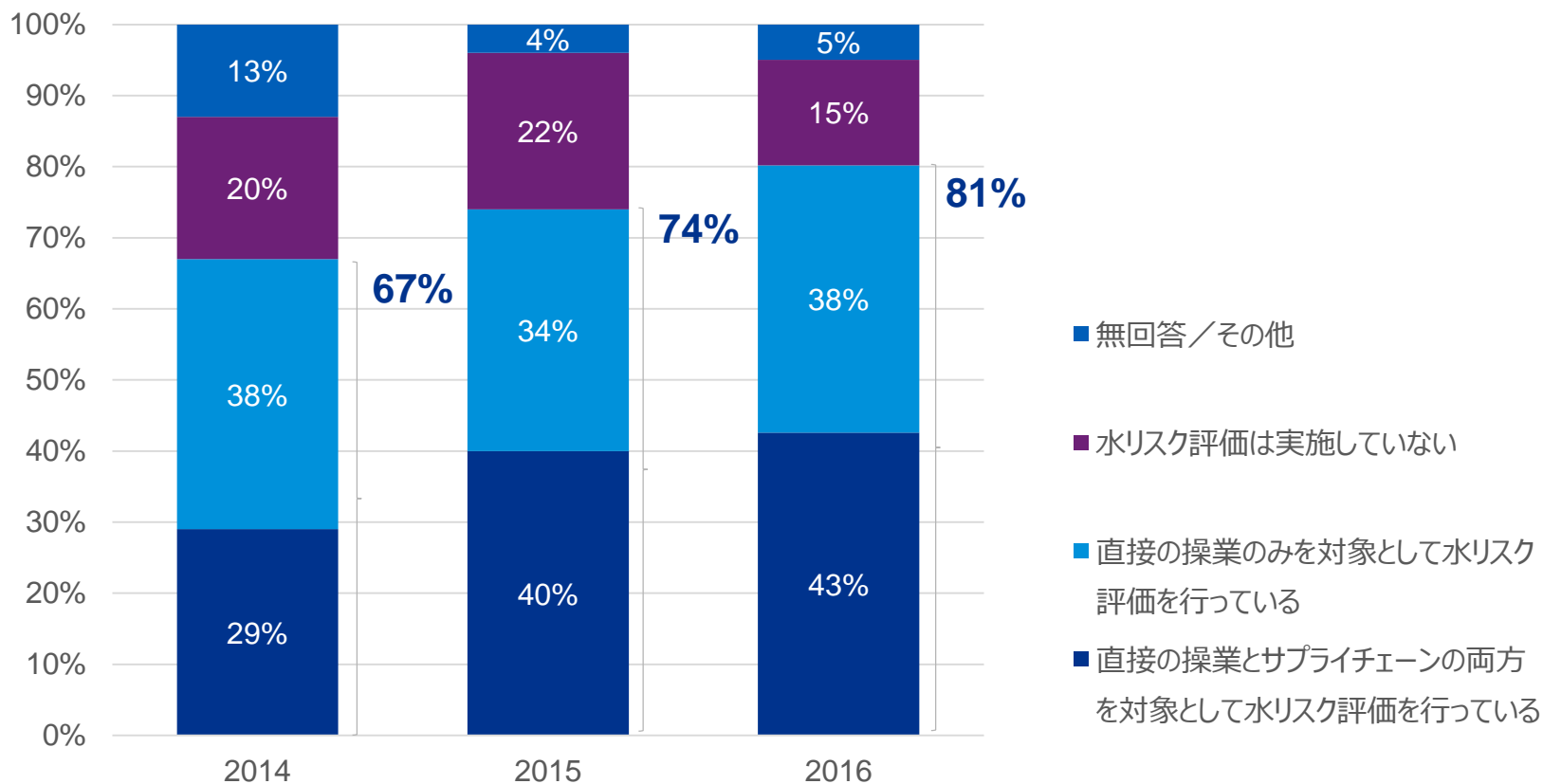
水リスクの認識

□ 66%の日本企業が水リスクを認識。水リスクを認識する日本企業の割合は増加傾向。



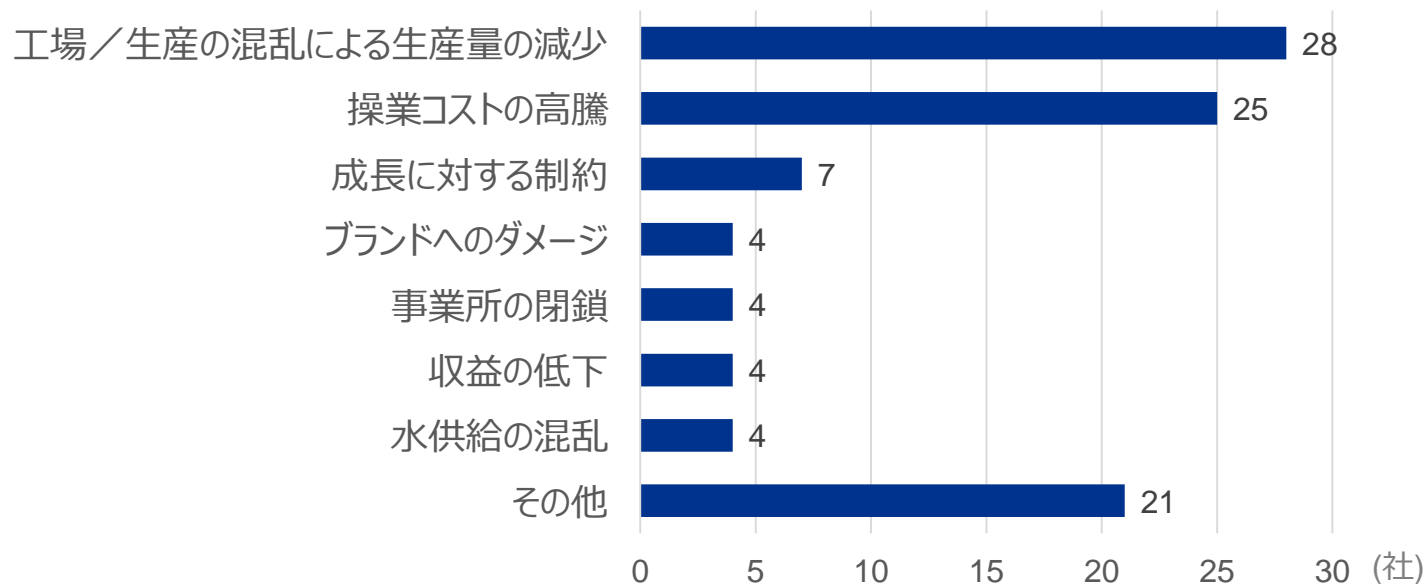
水リスクの評価

□ これは、水リスク評価を行っている企業の比率が顕著に増加していることが大きな理由になっていると考えられる。

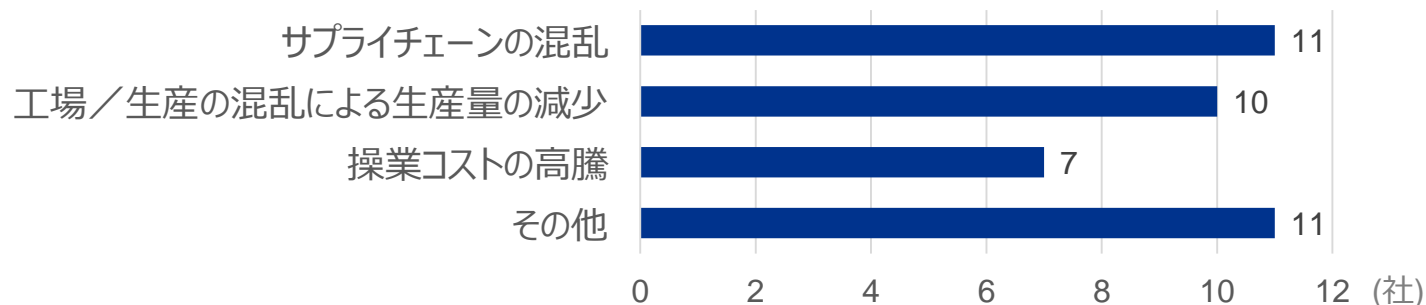


認識されている水リスク

直接の操業

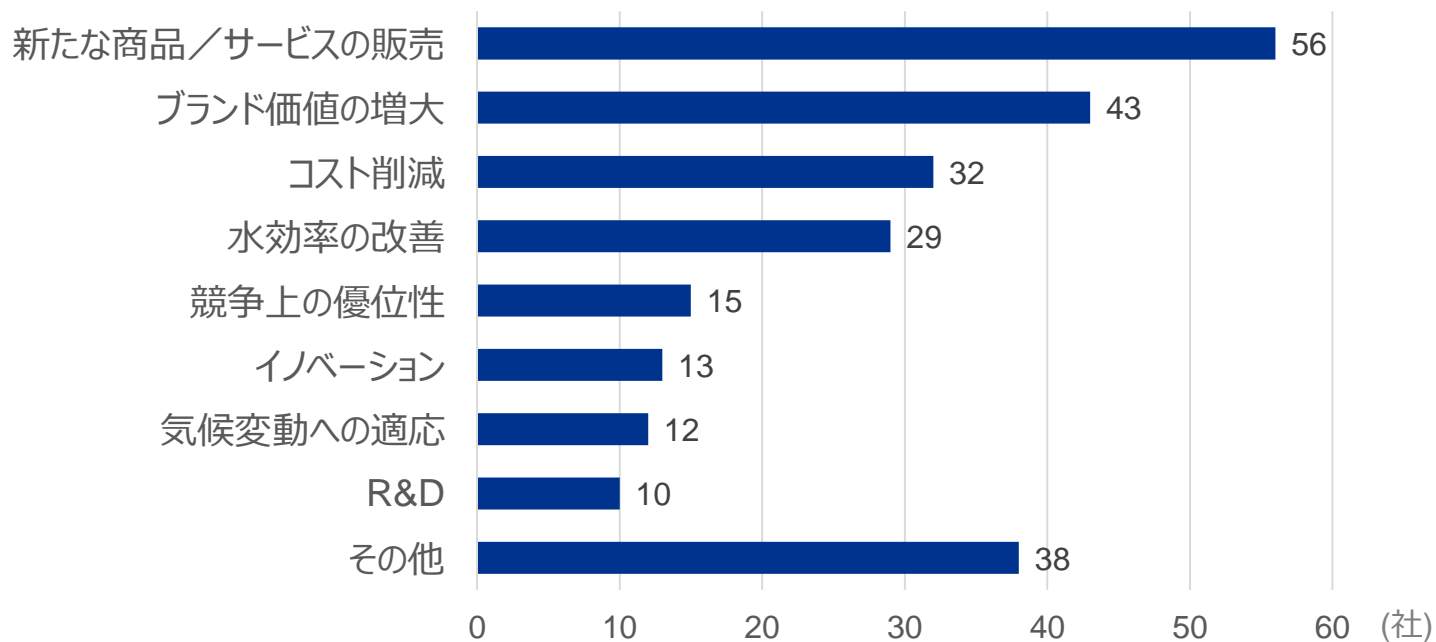


サプライチェーン



水に関連する機会

□ 65%の日本企業が水に関連する機会を見出している（2014年: 56%、2015年: 64%）。



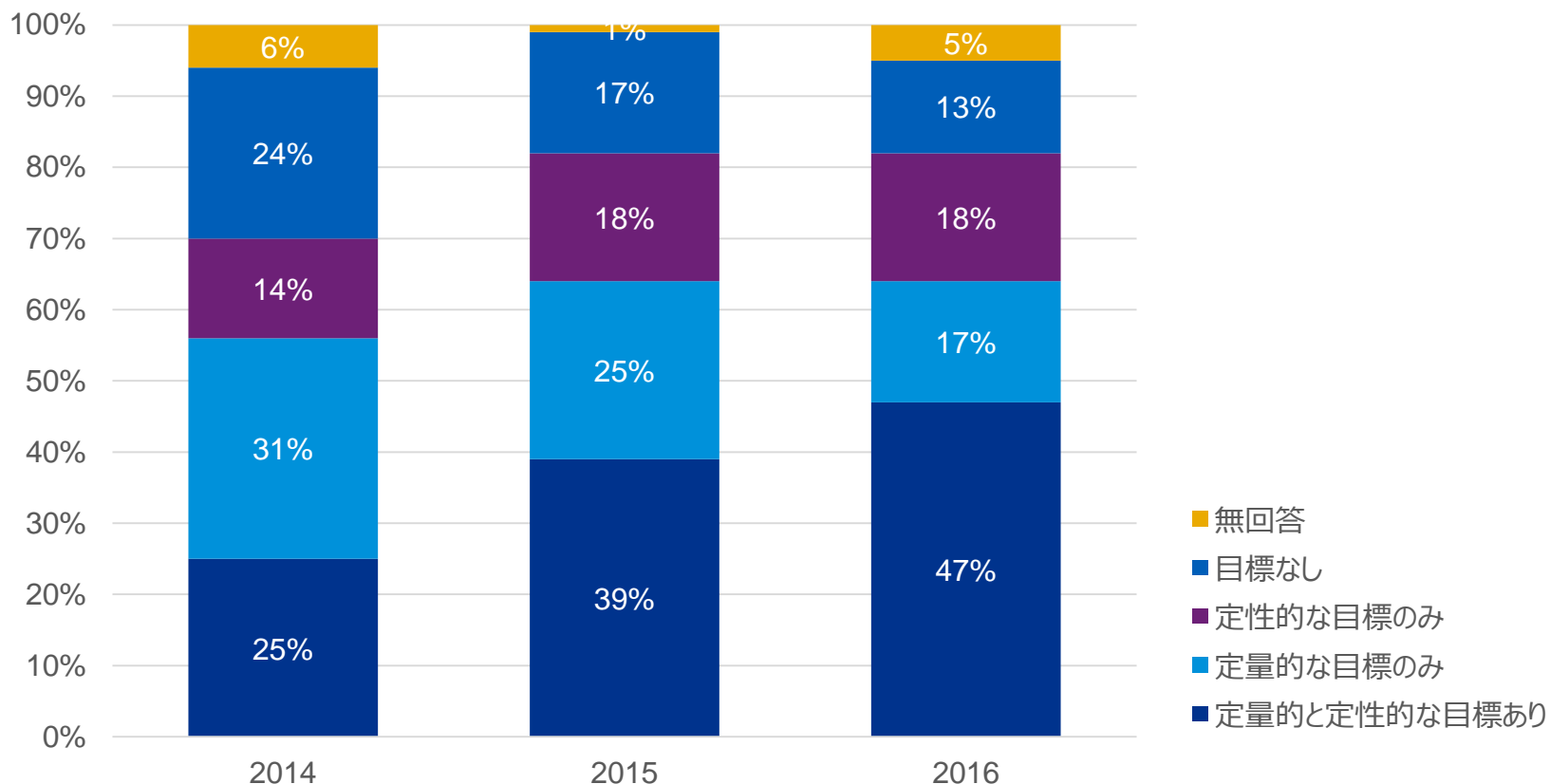
水問題の解決に向けた企業への期待

- **持続可能な開発目標（SDGs）**は、企業に対し「持続可能な開発における課題解決のための創造性とイノベーションを発揮すること」を求めている。
- SDGsには、「**すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する（目標6）**」をはじめとし、水に関連する複数の目標が含まれる。企業には、水に関連する社会課題の解決に向けた貢献と信頼や競争力の向上を同時実現することが期待されている。



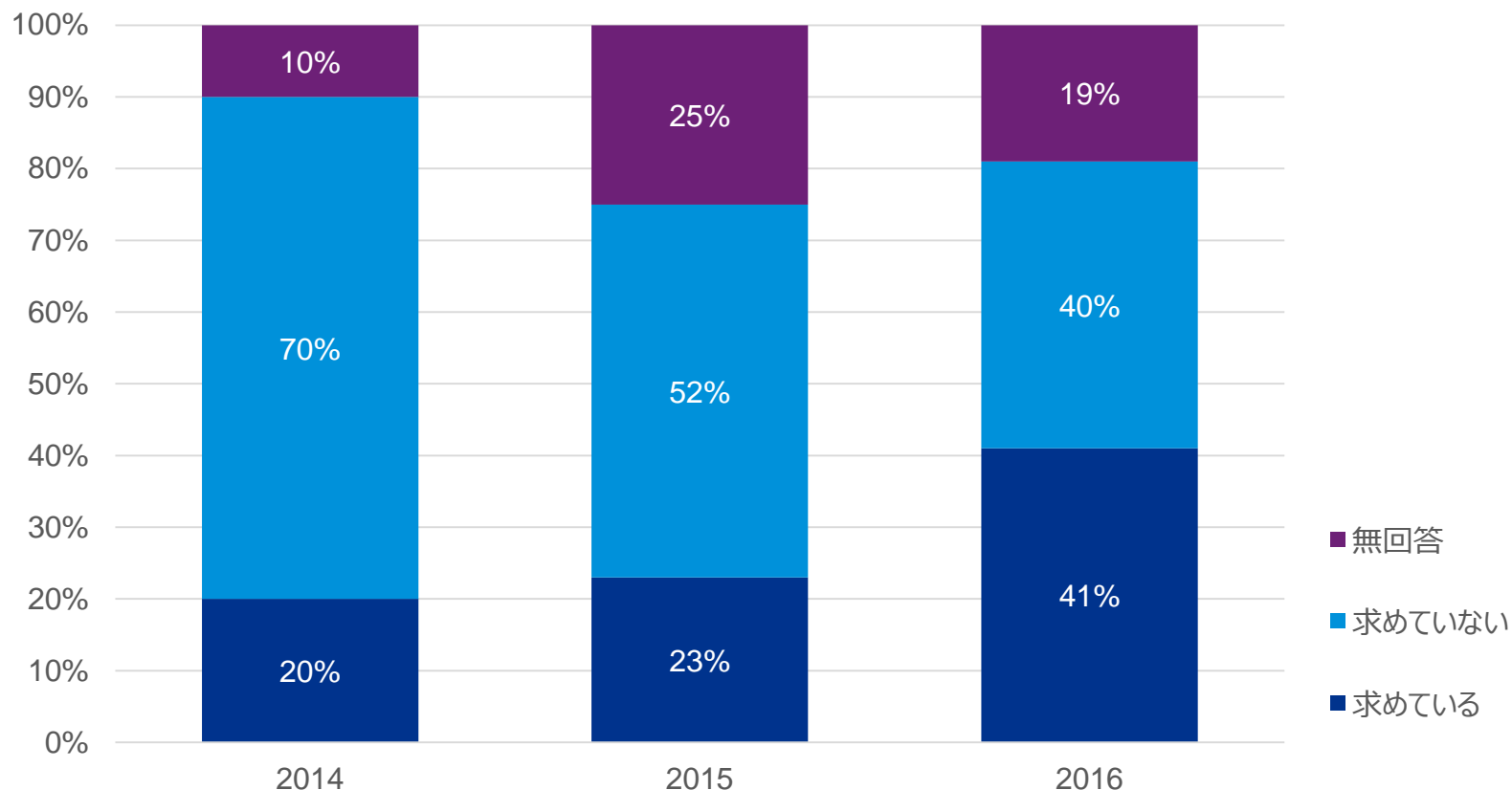
戦略への組み込みと目標設定

- 76%の日本企業が水の管理をビジネス戦略に組み込んでいるが、グローバルの83%より若干低い。
- 47%の日本企業が定量的目標（ターゲット）と定性的目標（ゴール）の両方を設定している。これもグローバルの54%より若干低い。



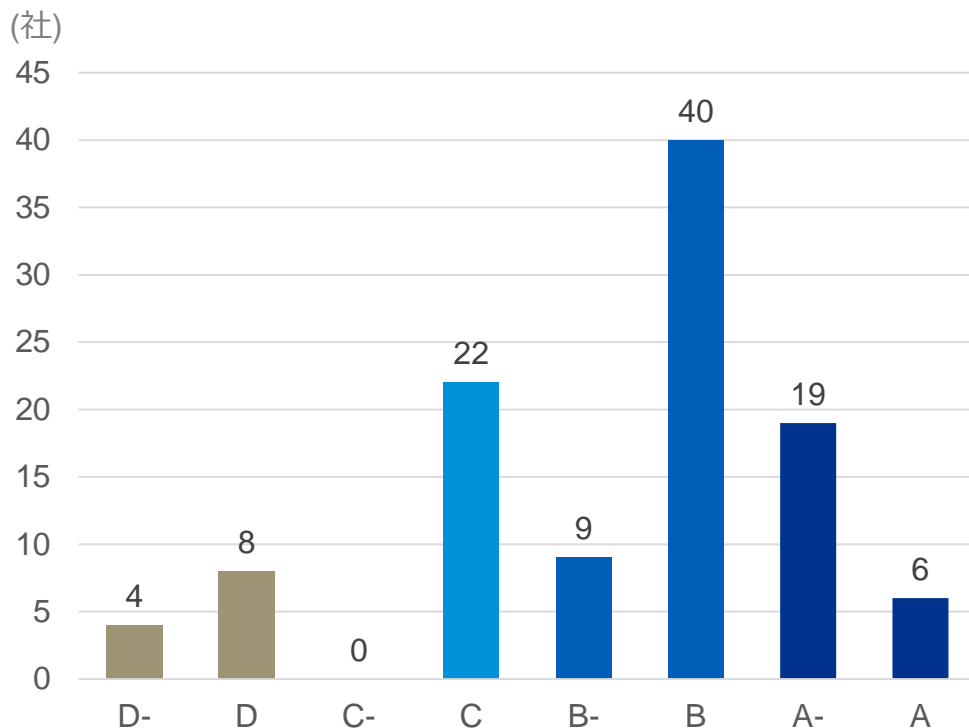
サプライヤー

- サプライヤーに対して水リスクや水使用量の報告を求めている企業は41%となり、前回から18ポイントの増加となった。サプライチェーンにおける水リスクに関する認識が広まり、サプライチェーンにおける水リスクの把握に着手する企業が増加したためと考えられる。



スコアリング

- **Aリストに選定された日本企業**の数は前回の3社から6社に増加（グローバル全体では24社がAリスト選定）。**スコアリング対象企業の23%がリーダーシップレベル**にある。
- 日本企業の水リスクに対する対応に大きな進展が見られる。



リーダーシップ	75-100%	A
	0-74%	A-
マネジメント	75-100%	B
	0-74%	B-
認識	75-100%	C
	0-74%	C-
情報開示	75-100%	D
	0-74%	D-

まとめと課題

まとめ

- 150社中96社（64%）が回答し、27社からは自主的な回答。日本企業の水リスクに対する課題認識は高まっている。
- 水リスク評価を行う企業の増加に伴い、水リスクを認識する企業の割合も増加。
- グローバルの結果と比較すると、水管理のビジネス戦略への組み込や目標設定の点では改善の余地。
- サプライヤーに対して水リスクや水使用量の報告を求める企業が大幅に増加。
- 全体的なスコアリングの結果も前年から向上。

課題

- 水リスクの評価にはまだ改善の余地。
- 英語での回答。



Thank you